

## 時間管理に注目した新人看護師指導の実際

### ～業務タイムスケジュール表の作成と評価～

5-1病棟 三浦智美 本田尚子

#### I. はじめに

5-1病棟（以下病棟とする）では新人看護師（以下新人とする）が見通しを立てながら看護実践を行うという課題達成の為に病棟内で話し合いを実施し業務タイムスケジュール表を作成した。今回は時間管理に注目した業務タイムスケジュール表を用いた指導の実際と評価の為にに行った質問紙調査から得られた今後の課題について検討した内容を報告する。

#### II. 研究目的

新人看護師を対象として業務タイムスケジュール表を用いた指導を実施。その評価と今後の課題を検討する。

#### III. 倫理的配慮

1. 質問紙調査は無記名記載とし提出に際しては自由意思を尊重。名簿チェックは行わない。
2. 調査表の保管は厳重に行い調査終了後には細断・焼却処理を行う。
3. 公の場で今後発表の可能性があるということ及び発表にあたっては匿名性を保持し個人が特定できないようにする。

#### IV. 結果・考察

第1回目の質問紙調査から新人にとっては日々の業務をスムーズに行う為に80%が役立ったと答え

た。第1回目の質問紙調査の結果を基に業務タイムスケジュール表を9月に改正。第2回目の質問紙調査では新人から先輩に業務タイムスケジュール表の内容をもとに必ず相談すると決めたことで時間の使い方について以前よりコミュニケーションがとれているように思われた。新人は技術を習得していくというだけではなく優先順位や時間の有効活用を学ぶ機会となった。そして先輩は新人の指導をしながら時間管理を意識する機会となった。業務の調整を行なう為にはスタッフ間の相談が必要になってくる。その際に業務タイムスケジュール表のような一種のツールを使用することでコミュニケーションを取りやすくなるということが考えられた。業務タイムスケジュール表の使用に際し設定された目標については新人・先輩それぞれに十分な理解が得られていなかった。目標の提示方法としてはスタッフ全員に対して資料の配布とカンファレンスの時間を利用しての説明を行なったが毎日の看護実践の中で常に目標を意識するというには至らなかったようである。今後は目標の見直しとその周知方法についても検討が必要と考える。初めての取り組みではあったが質問紙調査によっていくつかの課題が明らかになった。今後は課題について検討し、より良い新人指導を行なっていけるように病棟全体で取り組んでいきたい。

## 助産師外来の構築

6-1病棟 西岡恵美 鈴木志麻  
石川睦子

#### I. 助産師外来構築に至った背景

今日産科医不足は深刻であり当院においても同様である。一方で、利用者より「もう少し医師・助産師と話したい」「待ち時間を短くして欲しい」という声もあった。同時に看護協会が助産師外来を推進する動きもあり妊婦が安心した妊娠経過を送る為に助産師の専門性を活かす事ができないかと考えた。

#### II. 当院の助産師の活動について

産科単科として23名の助産師が妊産褥婦へのケア、分娩介助、新生児ケアを行っている。平成2年にマミールームが開設、妊娠中の保健指導と褥婦への授乳指導が強化された。当時は外来助産師が専任で担当したが、平成10年より病棟助産師が担当している。平成16年より産科外来の診療介助を病棟

助産師が行うようになった。そして、平成 18 年の助産師外来開設へと至った。

### Ⅲ. 助産師外来が開設されるまでの経過

約半年をかけスタッフ全員で準備を行った。まず、助産師外来の定義を掲げ、「医師と連携をとりながら助産師の専門性を生かし正常妊産婦の健康診査やケアを助産師が主体的に行うもの」とした。

平成 18 年 7 月に師長含む病棟助産師 5 名が日本助産師会の企画する「助産師外来の開設と運営」に参加、基本的な構築を学び病院見学に行った。

同年 9 月、助産師外来へのスタッフの意識を知る為に師長がスタッフ全員と面接を行い、助産師外来開設に対する考えを確認した。そして、病院へ助産師外来開設の考案を提出し了解が得られた。

その後、5つのプロジェクトを作り分担した。スタッフから希望を募り、4人から5人で担当をし、リーダーは勉強会に参加したスタッフとした。そして、3月初旬より予約を開始し中旬に診察を開始し、現在2年が経過したところである。

### Ⅳ. 助産師外来の実際

担当助産師は経験年数4年目以上、マミールームでの保健指導、胎児のエコー技術、妊婦健康診査技術の習得ができた者とした。また、スタッフの公平さを尊重する為半年での交替制、また、医師と同じ

曜日固定制とした。診察枠は、月曜から金曜の朝9時からの6枠、1人30分の完全予約制とした（現在は午後まで含め9枠である）。料金は他病院の情報も踏まえて医師と同額である。また、従来の医師の診察後の保健指導も引き続きマミールームで行うこととした。対象者は、妊娠20週以降39週未満で本人のニーズがあること（但し28週、36週は医師外来）、単胎妊娠で現在合併症が生じていない、医師の許可を得ていることを条件とした。内容は、妊婦健診や、超音波検査（胎位・胎向・胎盤の位置・児の推定体重・羊水量）、保健指導を行っている。

### Ⅴ. 助産師外来の利用者数

毎月増加しており、現在月に100人以上の方が利用している。

### Ⅵ. 現在の問題点と今後の課題

予約時間に遅れてくる方がいる為30分の診察時間を確保できない、次の方をお待たせするという事態が生じている。PR用紙に時間を守って頂くことを付け加えている。また、予約枠が一杯で助産師外来を希望しても受診できない時があり、これは午後まで予約枠を拡大することで対応した。

今後は、助産師外来の担当を希望するスタッフがいずれも実施できるようレベルアップが求められる。

## 助産師外来開設準備がスタッフに与えた影響

6-1病棟 鈴木知代 渡邊幸子  
石川睦子

### Ⅰ. はじめに

産科医師の大都市への集約化による医師不足の問題やスタッフの強い希望、妊婦からも高い関心から助産師外来が開設された。開設に向けプロジェクトを立ち上げ活動した結果、助産師自身の意識がどのように変化したのかをアンケート実施することで明確にしたので報告する。

### Ⅱ. 対象と方法

開設に関わった当院助産師19名へ質問紙を配布し実施した。（回収率100%）

### Ⅲ. 用語の定義

助産師外来とは：医師と連携を取りながら、助産師の専門性を生かし、正常妊産婦の健康診査やケアを助産師が主体的に行うものである。

### Ⅳ. 結果

スタッフ全体で活動の達成感に対し、高い結果がみられた。役割別にみると、プロジェクトリーダーをした者がグループ活動、役割への達成感がともに高かった。活動を通して得られたことについては、複数回答を問うもので「スタッフ同士のコミュニケーションがとれた」「今までの保健指導の見直しの必要性がわかった」「継続看護の必要性がわかった」「助産師としての自信がついた」という意見がみられた。経験年数別の達成感では、10年目以上のスタッフに高い結果がみられた。助産師外来開設の活動が助産師としての今後の活動に影響したとの回答が多かった。助産師外来担当への希望者が開設後に増加した。